

# ものづくり人材育成やまがた便り

## 今どきの大学生の就職意識について(傾向と対策)



山形大学学術研究院  
学士課程基盤教育機構  
准教授 松坂 暢浩

### 1. 大学生の地元志向

現在、売り手市場と言われるように、大卒の就職環境が良くなったことで、地方圏の大学生が、より良い条件を求めて都市部での就職を希望し、地元就職希望者が少なくなっているのではないかと不安や懸念があります。人材確保に悩む県内中小企業の採用担当者からも、学生からのエントリー数（資料請求数）が減っており、地元就職希望者の状況はどうなのかという質問を受けることがあります。そこで、今回は大学生の「地元志向」について、データを基に紹介をしたいと思います。

### 2. 地元での就職を希望する学生の傾向

民間企業の調査によると、2020年卒業予定の大学生・大学院生の地元就職希望者の割合は49.8%と、調査を始めた2012年卒から連続で減少傾向にあります。地方では、若者の地域定着・回帰が求められています。地元より都市部の企業に学生の目が向いている状況といえます。

次に、大学生の地元志向の傾向について。地元志向の研究を長年行っている山口大学の平尾元彦教授は、地元志向の大学生の特徴として、「広い」「移ろいやすい」「弱い」の3つのキーワードを挙げています。

まず「広い」とは、大学生が就職活動で考えている「地元」という概念は、広域であるということです。これは、彼らが出身県以外の近隣県も「地元」と捉えているのがポイントです。交通網が発展し、通勤可能な範囲が広がっていることが要因であると考えます。例えば、山形県山形市出身者で地元就職を希望する学生の場合、「実家から通える範囲」、「山形県内」、「近隣県の宮城県（仙台市）」を「地元」として捉えています。また、最近の研究では、宮城県出身の学生

は、山形県も地元と考えていることが明らかになっています。

次に「移ろいやすい」は、就職活動を通じて学生の地元志向は変化するということです。一貫して地元で就職を希望する学生は少なく、2、3割は流動的であると言われています。本学で行った内定者調査においても、就職活動前は、地元で働きたいと考えていた学生の概ね2割は最終的に地元以外で就職していました。逆に、就職活動前は地元にこだわっていなかった学生の約4割は最終的に地元で就職していました。

そして「弱い」は、総じてキャリア意識が低いということです。地元志向の学生のなかには、働くことや就職活動にネガティブな意識を持っている層が一定数存在します。当然、キャリア意識の高い学生も存在しますが少数です。ただし、ここで指摘しているのは、あくまで「意識」の面であり、決して「能力」が低いということではありません。「意識」は働きかけによって高めることができます。

### 3. 県内企業へ学生の目を向けさせるための方策

上記で挙げた「地元志向」の傾向を踏まえ、県内企業に学生の目を向けさせるための方策を2つ挙げたいと思います。

まず1つ目は「情報提供」です。学生は、中小企業の求人情報を見つけることができず、仮に情報源を見つけても、中小企業の魅力が伝わっていない可能性があります。では、どのように情報提供をしていけばよいのでしょうか。例えば、3年生からではなく低学年次（大学1、2年生）から、授業のなかで地域の企業を紹介するなど、早期からの情報提供が有効であると考えます。また「地元志向」は変化することを前

提に、県内就職希望者の学生だけに企業情報を提供するのではなく、県内以外で就職を考えている学生にも積極的に情報提供することも必要でしょう。また、**近隣県出身への情報提供**も重要だと考えます。特に宮城県出身者に対して、県内企業の魅力を伝えることは、県内就職につなげる効果的アプローチだと考えます。

そして2つ目は「インターンシップ」です。インターンシップを通して、企業の魅力を直接伝える機会になります。インターンシップは、採用の一環と捉えられがちですが、最近の研究において、「採用活動」と切り離し「教育」の観点でインターンシップを受け入れることで、広い意味で「採用力の向上」につながることが明らかになっています。また、インターンシップを受入れることで、改めて「**自社の魅力を整理する機会**」にもなります。

以上、2つの方策をご紹介しましたが、まず大学と連携した取組みを始めるためにも、ぜひ一度キャリアセンター（就職課）に足を運んでいただき、ご相談をいただければと思います。

## 参考・引用文献

- 梅崎修・田澤実（編著）（2019）『大学生の内定獲得：就活支援・家族・きょうだい・地元をめぐる』，法政大学出版局
- 菅原良・松下慶太・木村拓也・渡部昌平・神崎秀嗣（編著）（2017）『キャリア形成支援の方法論と実践』，東北大学出版会
- 田澤実（2018）「大学生の地元志向と交通網—地元と認識する他県に注目して—」，『生涯学習とキャリアデザイン』（法政大学キャリアデザイン学会），16(2)，75-85.
- 平尾元彦・田中久美子（2016）「大学生の地元志向とキャリア意識」，『キャリアデザイン研究』（日本キャリアデザイン学会），12，85-92
- マイナビ（2019）「2020年卒 マイナビ大学生Uターン・地元就職に関する調査」
- 松坂暢浩（2017）「地方圏の大学生の就職意識とインターンシップ」，日本政策金融公庫総合研究所，『調査月報』，（10），36-40
- 松坂暢浩・山本美奈子・小野浩幸・野田博行（2019）「中小企業団体と大学の産学連携インターンシップ—企業調査による満足度および人材育成の観点から—」，『産学連携学』（産学連携学会），15(2)，55-63

## ～(公財)山形県産業技術振興機構研修課より～

たくさんの企業の皆様に、当機構主催の製造業技術者研修、成長分野参入人材育成研修、ロボットシステムインテグレータ育成研修を御利用いただき誠にありがとうございます。

今後とも県内産業振興のため、ものづくり企業の皆様の人材育成の一助となる研修事業や情報の提供を展開してまいりますので、引き続き、御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### ～◆ロボットシステムインテグレータ育成研修[専門(ハード設計コース)]◆～



※ 次回令和2年1月 応用コース開催予定

## ～今年度No.2号にあたり編集者から一言～

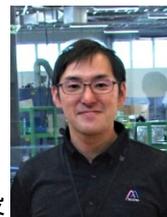
今年度No.2号は、キャリア教育論の専門家である山形大学の松坂暢浩准教授に第2弾「今どきの大学生の就職意識について（傾向と対策）」というテーマで寄稿いただきました。また、企業訪問記におきましては、地元山形の女性を高度技能者として活かしておられる株式会社マイスター様に訪問インタビューさせていただきました。御協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

## 「企業訪問記」

# 山形県のモノづくりを支える「道具づくり」

～株式会社マイスター～

高井 糧 代表取締役



私ども株式会社マイスターは、1976年（昭和51年）に山形県河北町で、個人経営の金型設計業として創業しました。1988年（昭和63年）に本社および工場を寒河江市に移転し、社名を現在のマイスターに変更、2009年（平成20年）に現在の寒河江市中央工業団地に本社を移転しました。2018年（平成30年）には、第2工場と第3工場が完成し、現在に至っています。

私たちにとって、工場は単なるモノを効率よく大量に生産する場所のみにあらず、お客様の見えないウォンツを叶えるために、+αの価値を創造する「場」でもあります。それを生み出す基になる「人」に焦点を当て、モチベーションと働きがいを演出する「時空の場」として捉えています。「結」の思想をコンセプトにした本社工場「結い工房」、自動運転・無人化に向けて未来を見据えた第2工場「未来工房」、そしてその2つの工場を照らす光となる存在の医療機器製造に特化した第3工場「光工房」の3つの工場体制が完成しました。

正三角形の本社工場、正三角形を組み合わせた六角形の第2工場には左右と東西南北の面はありません。既成概念にとらわれない発想で、創造性のあるモノづくりを目指しています。

### 高い技術力をお客様と共に作る

私たちの生業（なりわい）は、製造業であるお客様が更に付加価値の高い仕事をしてもらう事が出来るようにお手伝いすることです。

そのためにも、私たちは社内共有の価値観である企業理念「協調・共感・共演」を大切にしています。

### 持続可能な企業であるために

大量生産・大量消費の時代に「もったいない」の心から切削工具の再研削事業をスタートさせました。それ以来40年間、様々な産業界で使用される「切る・削る」の現場をお客様と共に見続けてきました。そういった経験から、ドリル・エンドミル・フライスなどあらゆる切削工具の再研削、改造、修理に対応できます。また、私たち自身もお客様と同じ視点から課題に向き合い、特殊切削工具の新規設計、製作を含めて切削加工の価値を高めるトータルカウンセラーとして最適な提案をし続けることが出来ます。

### 女性の活躍(高度技能者への育成と活用)

- 1996年（平成8年）
  - ・20代の女性4名を研削技能者として初採用
- 2003年（平成15年）
  - ・山形県初の女性切削工具研削技能検定合格
- 2004年（平成16年）
  - ・山形労働局より男女雇用均等優良賞受賞
- 2008年（平成20年）
  - ・女性技能者8名と倍増を達成
- 2013年（平成25年）
  - ・経済産業省ダイバーシティ経営企業100選表彰
  - ・ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰

### ここ山形でかけがえのない人生を

多様な価値の存在が協調しながら同じ理念を持つために、様々な取り組みを実施しています。エコアクション21などの環境活動、倫理教育や心のカウンセリング、ブラザー制度等です。また、なりたい自分に成る！を応援するカフェテリア自己啓発プラン（学びたいものを会社がバックアップする仕組み）があります。

### 2019年度採用実績(新入社員9名採用)

大卒2名、産技短2名、専門学校1名、高卒4名

## = 若手社員へのインタビュー =

### ～「道具づくり」の匠を目指して !! ～

米沢市出身入社3年目の成澤 信哉さん（25歳）にお話を伺いました。

#### Q 入社の動機は

『モノづくり』企業で働きたかった。大量生産ではない日々異なる一品料理的な仕事があったのでマイスターを選びました。

#### Q 担当業務の内容と感じていることは

製造技術部で5軸のMC（マシニングセンター）を担当しています。プログラムから加工まで全工程を担当しており、全部自分でできるので、凄く楽しいです。

#### Q 現在の仕事はどうか

仕事が楽しく熱中しすぎて、ついつい時間が過ぎるのを忘れそうになることも。

#### Q これからの目標は

今は、製造技術でMCを担当していますが、ワイヤー放電や平面研削盤なども担当したいです。

#### Q 趣味はありますか

ロードバイクに乗ったり、冬はスノボをしたり、ゲームも好きです。

#### Q 最後に、大切にしている心構えは

常に改善の気持ちを忘れないことです。それから、とにかく、新しいことがしたいです。ずっとその気持ちを忘れないでいたいです。

最後に、対応いただいた高井 糧社長、インタビューをさせていただいた成澤 信哉さんに感謝申し上げます。

[ホームページ http://ymeister.co.jp](http://ymeister.co.jp)



## ～山形県からのお知らせ～

令和元年度後期技能検定を実施します。35歳未満の方※を対象に2級及び3級の実技試験受検料を最大9,000円軽減しております。皆さん、技能検定制度をご活用ください。

なお、2級実技試験を課題とし、来年度の技能五輪山形県予選会が行われる種目もあります。詳しくは、受検案内をご覧ください。

※実技試験実施日が属する年度の4月1日において、35歳に達していない方

#### 令和元年度 後期技能検定受検案内

項目	期日
受付期間	令和元年10月7日（月）～10月18日（金） （土日祝日は休み、郵送の場合は締切日の消印有効）
実技試験 問題公表日	令和元年11月29日（金）
実技試験 実施期間日	令和元年12月6日（金）～令和2年2月16日（日）
学科試験 実施予定日	令和2年1月26日（日）、2月2日（日）、2月5日（水）、2月9日（日） のうち受検票により指定した日
合格発表日	令和2年3月13日（金）

～◇ご不明な点や詳細についてのお問い合わせ先はこちら◇～

#### 【 山形県職業能力開発協会】

- 〒990-2473 山形市松栄二丁目2-1
- TEL：023-644-8562
- FAX：023-644-2865
- URL（<http://www.y-kaihatu.jp/examination/index.html>）

公益財団法人山形県産業技術振興機構技術部研修課 <http://www.ypoint.jp>  
〒990-2473 山形市松栄2-2-1（山形県高度技術研究開発センター内）  
TEL：023-647-3154/FAX：023-647-3139/E-mail：info@ypoint.jp